

## 日本病理学会中国四国支部「第21回病理学夏の学校」開催報告

第21回病理学夏の学校 世話人 山元英崇  
岡山大学 病理学(腫瘍病理)

第21回日本病理学会中国四国支部主催「病理学 夏の学校」を、令和5年8月27日(日)、岡山大学 鹿田キャンパス「鹿田会館講堂」にてお世話させていただきました。会場が直前に変更となりましたことお詫び申し上げます。当日は中国四国支部の大学や病院などから学部学生37名と大学院生・初期研修医10名のほか、教員15名の計62名にご参加いただきました。参加者の皆様より暖かいお心遣いを頂き、心から御礼申し上げます。

今回の夏の学校は「Meet Pathology, Meet Friends」をテーマに掲げました。新型コロナウイルス感染症のため、前回開催から4年ぶりの開催となりましたが、改めて病理学の楽しさや魅力に触れていただく「Meet Pathology」の機会になればとの願いを込めました。外部講師として、弘前大学大学院医学研究科 病理診断学 講座 黒瀬 顕先生と福山医療センター 病理診断科 表 梨華先生をお招きしました。黒瀬 顕先生には、「形が訴えていること、答えは自分でみつきたいー病理診断学という医療と 病理学という学問ー」をテーマに、実臨床と研究面双方より病理学の魅力をご講演頂きました。表梨華先生には、「消化器内科医から病理医へ」をテーマに、臨床と病理の両方の視点から、病理診断の面白さをご講演頂きました。

また、病理に興味のある学生、研修医、専攻医や病理関係の皆さまが face to face で集まり、同じ志を持つ仲間との「Meet Friends」の機会になるように、参加型プログラムとして、「病理診断にチャレンジ」を企画しました。実際の日常診断でも遭遇するような症例を用いたワークショップで、グループディスカッションを通じて、学生同士の親睦を深めるとともに、医師国家試験や病理専門医試験に役立つ内容になるよう工夫しました。当日は、ワークショップに先立ち、13時の会の最初に写真撮影を行い、表先生の講演、病理診断に関するミニクイズをまず行いました。14:10から、ワークショップのグループ学習を8班にわかれて行い、全8問をグループごとに解答して頂きました。14:55からは、班ごとの担当問題をグループ発表して頂き、コメンテーターとの discussion を行いました。黒瀬先生の講演を聴講した後に、解答率の高かった最優秀班を表彰し、17時に閉会となりました。当日議論のあった点を含めて解答・解説を加えたスライドを支部のホームページに報告書とあわせてアップロードしていますので、ご参考にして頂ければ幸いです。

日帰り日程でタイトなスケジュールとなりましたが、楽しい密な時間となったのではないかと思います。末筆ながら、講演を快く引き受けてくださいました黒瀬 顕先生と表 梨華先生、ご参加いただいた全ての皆様と、準備に尽力いただいた教室員にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

【プログラム】

2023 年 8 月 27 日 (日)

12:00-13:00 受付 (鹿田会館 2F)

13:00 : 集合写真撮影

13:10 : 開会式, 世話人挨拶, 池田栄二支部長挨拶

13:20 : ご講演 「消化器内科医から病理医へ」

福山医療センター 病理診断科

表 梨華先生

13:50: ミニクイズ

14:10: 参加型ワークショップ 「病理診断にチャレンジ」

14:55: グループ発表

16:00: ご講演 「形が訴えていること, 答えは自分でみつきたい

—病理診断学という医療と病理学という学問—」

弘前大学大学院医学研究科 病理診断学講座

黒瀬 顕先生

16:45: 休憩, アンケート(QR コードより WEB 実施)

16:50: 閉会挨拶

## 【講演抄録】

### 消化器内科医から病理医へ

福山医療センター病理診断科

表 梨華

私は”勤務した病院に常勤病理医がいなかったから”というかなり変わった理由で消化器内科から病理に転科した病理医です。実は、病理医も内視鏡医も“形態像”を大事にするので、そういう意味では親和性があるように思っています。消化器内科医時代、内視鏡をする中で『拡大したらどのように見えるのかな?』という疑問が、『拡大ではこう見えただけ、顕微鏡ではどう見えるのかな?』という疑問に変わっていきました。レジデント時代から暇を見つけては病理診断科を訪れていました。当時、今の職場には常勤病理医が不在であったため、非常勤で来られる病理の先生のところに毎週のように質問しに行っていました。ある日、“病理医に転科してみたら?”というその先生の言葉がきっかけで転科を考え始めました。そして“私が病理医になれば院内に常勤病理医ができるかもしれない”というとても単純な理由で転科したのです。そして転科して7年後、当初の目標通り、常勤病理医として今の職場に戻ることができました。そして実際に病理医として働いてみて、病理に興味はあるけどどうしていいのかわからない臨床医が少なからずおられることに気がつきました。忙しくてなかなか標本を見に来る時間のない臨床の先生達に少しでも病理に興味を持ってもらえるようにするために、試行錯誤しながら少しでも臨床と病理の架け橋ができればいいなと思っています。そんな病理医の日常についてお話しします。

## 【講演抄録】

### 形が訴えていること、答えは自分でみつけない — 病理診断学という医療と病理学という学問 —

弘前大学大学院医学研究科病理診断学講座  
弘前大学医学部附属病院病理診断科・病理部  
黒瀬 顕

中四国の学生/研修/専攻医のみなさんこんにちは。卒業時進路の決まらなかった僕は「最も偏りが無い」という理由で病理を選びました。大学院修了時東北地方の大学からの誘いに「スキーが出来る、山に登れる」と即決しました。ずっとモラトリアムが続きましたが留学して病理学の面白さが分かりました（これは僕の経験であり、すぐに面白さに気付く人も大勢います）。そして今は病理診断学/病理学に愛着を感じながら仕事をしています。それを少しでも分かち合えればと、以下のことをお話しします。

- ・ 識見を高めれば見えない物が見えてくる
- ・ 病理医が診断能力を上げればその病院の患者の予後は良くなり無駄な医療が減る
- ・ 研究することは組織を観る目を養い病態解明に役立つ
- ・ 組織は真実を語っている
- ・ 病気の実態を直接肉眼とミクロで見れるのは病理だけ
- ・ 他科の人と知り合いになれる
- ・ 横の繋がりを広げて豊かな人生を
- ・ 結果即ち正解を常に参照できるのが病理研究の強み
- ・ 1枚の写真で万人を納得させるのが電顕写真
- ・ 病理診断学はアメリカで外科学の中に誕生した
- ・ 病理解剖はいつの時代にも必要（Covid-19、新規治療法がよい例）
- ・ 尊敬する病理学者は皆謙虚
- ・ 時間の融通は効く
- ・ 患者さんに感謝されないが患者さんを診ないことは病理のメリット
- ・ 見て考えることは哲学に繋がる？
- ・ 「わかった」と思った瞬間に思考はストップする

「病理診断学/病理学とは組織や細胞形態の裡にある真理を解明する学問」です。皆さんは何を専攻しようとも病理診断学/病理学と積極的に交わって自分自身の医師としての成長に役立てて下さい。

## 【アンケート】

参加者 62 名中、55 名からアンケートの回答を頂いた。

1. あなたの属性を教えてください。

● 医学部生	35
● 研修医	5
● 専攻医/大学院生	4
● 教員/病理専門医	11



2. 表梨華先生の講演の満足度を教えてください。

● 満足	50
● やや満足	5
● どちらともいえない	0
● やや不満	0
● 不満	0



3. ミニクイズについて、満足度を教えてください。

● 満足	44
● やや満足	11
● どちらともいえない	0
● やや不満	0
● 不満	0



4. 参加型ワークショップ[病理診断にチャレンジ]について、満足度を教えてください。

● 満足	42
● やや満足	9
● どちらともいえない	3
● やや不満	1
● 不満	0



5. 黒瀬 顕先生の講演の満足度を教えてください。

● 満足	51
● やや満足	4
● どちらともいえない	0
● やや不満	0
● 不満	0



6. 日帰りでの開催について、満足度を教えてください。

● 満足	25
● やや満足	20
● どちらともいえない	7
● やや不満	3
● 不満	0



7. 岡山大学のスタッフの対応について

● 満足	49
● やや満足	5
● どちらともいえない	0
● やや不満	0
● 不満	1



## 自由記述

### 医学部生

楽しかったです

グループで会話、議論する時間がもう少し欲しかった

とても勉強になりました。

食事会、談話会などが別にあると楽しそうです！

コロナの状況が良くなれば、宿泊ありで開催されれば良いと思います。

教室が寒かった

分かりやすい問題と、ちょっと難しい問題がどちらも面白く勉強になった

重要な病理症例について学べたので、とても勉強になって興味が持てました。

ご講演とっても面白かったです。お二人ともとても attractive に楽しそうにお話されていて、こちらまで楽しくなりました。素敵な企画をありがとうございました。

夏の学校を開催していただきありがとうございました。

ワークショップの時間について、もう少し長いと嬉しいです。

日帰りなのは残念でしたが他大学の方や先生方とお話できて、楽しかっただけでなく色々な学びを得ることができました。

ありがとうございました。

普段聞けない病理医についての貴重なお話を聞くことができ、また様々な方との交流ができて良かったです。

今回は参加させて頂きありがとうございました。

初めて参加させて頂きました。講演も非常に面白く、ワークショップも活発な話し合いができて、非常に充実した1日となりました。病理学に対する先生方の熱い思い触れ、自分もより一層勉強に力を入れようと思いました。ありがとうございました。

初めて参加させてもらったので、学部生には難しい内容だったらどうしようと不安でしたが、興味深い講演とワークショップで非常に有意義な時間を過ごすことができました。

ワークショップの時間が短かったので、そこだけが心残りです。

また次回も参加したいなと強く思いました。

とてもいい勉強になりました。

2人の先生方の講演も面白く、とてもためになるものでした。

来年以降も機会があれば是非参加したいです。

日帰りじゃなくて泊まり込みでもっと長く病理の良さに触れたり他の人との交流ができたらいいなと思いました！

3年生でまだほとんどわからなかったけどワークショップのおかげで先輩の背中も見れたし考える楽しさを知ることができました。貴重な機会をありがとうございました。

半日開催ということで、参加者の方々とゆっくりと話すことができなかったのは少し残念でした。ですが、全体として病理医の雰囲気分かってとても良かったです。講義もワークショップもとても楽しかったです。

ワークショップの時間がもう少し長いと嬉しかったです。問題形式の課題の解説色々な話が聞けてよかったです。黒瀬先生の話は大変面白く、来て良かったと思いました。

自分の進路に関して大変参考になった。

病理医の仕事や組織の見方などについて沢山知ることが出来、とてもいい経験になり、楽しかったです。

非常に勉強になりました。満足しています

来年度以降、泊まりでの開催も楽しみにしています。ありがとうございました。

ワークショップの時間がもうちょっと長くあって欲しかったです

非常に楽しく学びの多い場となりました。開催していただきありがとうございました。

病理に興味があり参加しましたが、さらに病理の道へと進みたい気持ちが増しました。

知識不足でも皆さん優しいので、臆することなく参加でき楽しかったです。

病理学の知識はほとんどなかったが、医学部の先輩や研修医、専攻医の方と一緒に課題に取り組むことで知識が増え、目標にもなった。これからの勉強の励みになるいい機会だった。

宿泊型の開催があればよりありがたいです！

WSは学部3年生でも勉強になりました。分からない問題は他の班員の方が助けてくださりましたし、自分で答えられる問題に出会えた時は嬉しかったです。

講演やWSを通して、病理学の魅力を感じられました。来年以降も是非参加したいと思う会でした！

ミニクイズはもう少し難しくてもいいと思いました。

また、個人で解答を集計した上で議論できたら良いなと思いました。

クイズで学習したことが復習できただけでなく、先生方から有意義なお話を聞け、自分の将来についてや日々の過ごし方について考えさせられました。他大学の方と交流できる機会を頂けたことも刺激になりました。もし、宿泊込みの夏の学校の開催されればまた是非参加したいです。



## 研修医/専攻医/大学院生

とても有意義な時間でした。あっという間に過ぎてしまい、もう少し先生方や学生さんと交流できればよかったです。次回は宿泊での開催をぜひお願いします。

有意義なお時間をありがとうございました。

以前の宿泊での開催を経験しているので、ワークショップ及び交流両方とも、どうしても時間が短く感じてしまいました。

再び、宿泊で開催出来る時が来ることを心待ちにしております。

とても楽しめた。ありがとうございます

レセプションや交流会が復活するとういなと思いました。

興味深い講演が聴けて、病理の勉強に意欲が湧きました。

病理の魅力がよく分かる楽しいご講演でした。

## 教員/病理専門医

ご準備ありがとうございました。改めて勉強になりました。

大変密度の濃い内容で、学生にも適切な難易度の内容でよい刺激になったかと思います。スタッフの皆様のご尽力に感謝申し上げます

コロナ後ではあるが、合宿的な時間もあって良い。

Thank you so much

### 【総括】

アンケート結果からは、参加者の満足度は総じて高く、「Meet pathology, Meet friends」のテーマに沿った夏の学校が実現できていたと考えられた。恒例であった合宿形式から日帰り日程での実施となった今回の夏の学校であるが、日帰り開催は概ね好評であったものの、日帰りならではの問題点が散見された。具体的には、グループ学習の時間が十分に取れなかった点、懇親会の開催ができなかった点があげられる。合宿の復活を望む声もあり、夏の学校の適切な開催方法については引き続き議論が必要である。(文責：井川)

【写真】



西門の案内版



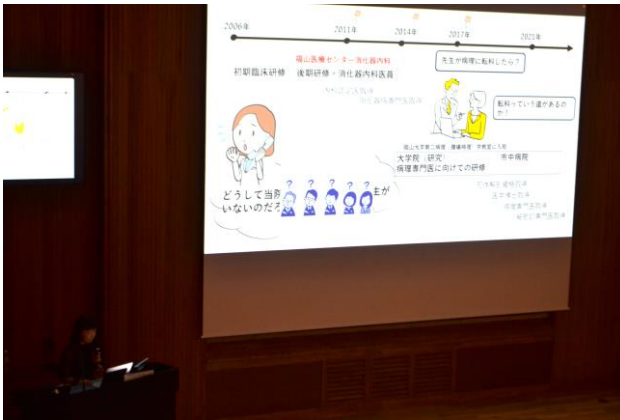
鹿田会館・講堂



受付



ミニクイズ



表梨華先生ご講演



黒瀬 顕先生ご講演



グループディスカッション部屋準備



グループ学習中



問題発表



グループ表彰

